

いのち・未来 うべ 通信 10 号



わたしたちは原発のない安全な未来を
子どもたちに残すことを願って活動しています

〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目2-36「青空」内 | Tel:080-6331-0960(安藤携帯) | <http://blog.ne.jp/nonukes2013>

3.26山口県民大集会を 成功させましょう！

会員のみなさん

あけましておめでとうございます。

昨年9月の総会以降、①上関原発計画の白紙撤回 ②放射能汚染からの防御 そのために金曜ウォークや学習会などで訴え仲間を増やすこと、この3つの活動に取り組んできました。



～もくじ～

- | | |
|--|---|
| ☆ 3.26山口県民大集会
成功させよう
いのち・未来 うべ
代表 安藤公門 …1 | ☆ 上関原発住民訴訟
第12回口頭弁論 …6 |
| ☆ 避難解除に向けて～
福島県葛尾村の今
浅野容子 …2 | ☆ {祝福の海}周南市
で上映 …6 |
| ☆ 野原千代さんを偲ん
で 浮田正夫 …3 | ☆ 会津放射能情報セン
ター代表片岡輝美さ
んのお話を聞いて …6・7 |
| ☆ 住民の命・安全を考
えない避難訓練 …4 | ☆ それってホント…7 |
| ☆ 祝島にて …5 | ☆ 福島郡山からの便
り …7 |
| | ☆ 豊北を訪ねて …8 |

祝島の訪問は、島民の会のみなさんとの交流、自然の中の暮らしを伝える平さんの棚田、放牧豚の新しい試みを行う農園見学など、とても印象深いものでした。

今年3月26日、私たちは、上関原発を建てさせない山口県民連絡会の呼びかけに答えて、三度目になる県民大集会に全力で取り組みます。

3.26集会は、メインゲストに、長谷川健一さんを迎えます。長谷川さんは福島県飯舘村の酪農家で現在は伊達市の仮設住宅に避難しています。長谷川さんは「原発事故を風化させないで欲しい。福島で起こった現実を知って欲しい。そして、飯舘村には子どもたちをもう返すことはできない。未来ある子どもたちを放射能汚染にさらさないで欲しい」と強く訴えています。

わたしたちが、上関原発計画に反対する一番大きな理由は、この福島の惨劇を山口県・瀬戸内で繰り返さないためです。福島原発事故が「原発震災」と呼ばれるように原発事故は自然災害と人災が一緒になった複合災害です。人々が長年培ってきた産業や暮らしをまるごと潰してしまいます。山口県では、1970年代末の豊北、萩市三見、田万川など日本海側の原発建設を許さないで来ました。上関町祝島のたたかいは、その伝統を継ぐものです。その正しさは、3.11の原発過酷事故によって、はっきりと証明されたものです。

今年、2016年は、チェルノブイリ事故から30年、福島原発の事故から5年目の年になります。「風化」なんてとんでもありません。今年を原発のない社会への希望をつかむ変革の年にしましょう。今年も、みなさんのご協力をよろしくお願いします。3.26集会をともに成功させましょう。

2016年1月 いのち・未来 うべ 代表 安藤公門

避難解除に向けて～福島県葛尾村の今 浅野容子

東日本大震災から4年9ヶ月を迎えました。千葉県から雑木林に移住して5年(夫は8年)で被災、人生の最後をのんびりと過ごすつもりだった場所を奪われてしまった悔しさは今も変わりません。

帰還前提の安全基準改ざん

避難直後から国も県も住民を守らない、県の優先課題は福島県という行政の枠組みを維持することだと感じてきましたが、残念ながらその思いはますます強くなっています。

政府の帰還促進政策は田村市都路地区、川内村



長谷川健一さん撮影による飯舘村の元旦 (山積みされたフレコンバッグ)

から始まり、今年9月には同じ双葉郡内の樽葉町の避難指示が解除されました。帰還したのは元の住民の一割にも満たないそうです。帰還の基準とされている放射線量は年間積算線量20ミリシーベルト、国内の原子炉等規制法の年間線量限度の1ミリシーベルトと比べるととんでもなく高い数字です。2011年4月に文部科学省が学校活動上での放射能安全基準20ミリシーベルトとしたとき、父兄と文部科学省との交渉をネットで見ながら、なぜ子どもにこれほどの多量の被爆を強要するのか憤りが収まりませんでした。住民の帰還に関して「健康への影響は考えられない」という乱暴な理由で年間積算線量20ミリシーベルト、放射線低減の長期的目標は年間1ミリシーベルトという避難指示解除の基準を示しました。これが発表されたのは2013年末だった

と思います。その時までは漠然と帰れないだろうなと思っていましたが、これでもう戻って元のように暮らすのは無理だという結論に思い至りました。

帰村の判断は個々に委ねると逃げる

2016年春の帰還に向けて、インフラ整備や村の施設の改修などの帰村準備プログラムが始まっています。帰村に伴う農業や林業の再開に向け、土壌や樹木の放射性物質濃度を測る実証事業も実施されていますし、信じがたいことですが、小中学校も2017年春に再開予定となっています。

先日送られてきた村の広報誌に、村政懇談会での帰還についての質疑応答が掲載されていました。敷地内の線量が高くホットスポットがあるので帰村できないという村民に対し「村は以前から(国に)安全基準を示すように要望してきたが、国からは依然として安全基準が示されていない。(避難指示解除が実施された時には)安全に対する個人の考え方にに基づき、帰村の判断をするしかない」と回答しています。

先の見えない今後

三世代同居だったお隣さんはお孫さんのことを考えて戻らない、同じ集落だったMさんは埼玉の息子さんのところへ避難し「(村を)捨てたわけではないけれど帰れない」とおっしゃる。

村おこしに奔走していたNさんは福島大学と連携して農地の実証実験に熱心に取り組んでいます。帰村に向けたインフラ整備を村は進めてはいるものの、帰村の判断はそれぞれに委ねられており、一体どれくらいの村民が戻るのか先は見えていません。

除染による放射性廃棄物を詰めた黒いフレコンバッグは山あいの圃場に何段にも積み重ねられており、村を訪ねるたびにその数が増してきていますが、最終処分場の確保さえ覚束ない状況です。生活の場であった山林、農地が汚染されているのに、精神的損害等の賠償は避難解除とともに打ち切られてしまいます。メディアからは福島の復興のかけ声ばかりが聞こえてきますが、住民の健康や暮らしがどう支えられていくのか、村民の生活再建はこれからが正念場だと思います。

野原千代さんを偲んで

うべ環境コミュニティ 浮田正夫

野原千代さんが、昨年10月28日に亡くなられたという突然の訃報に接し、大変驚きました。福島第一原発の事故によるヤマトシジミに及ぼす影響について調査するため、いち早



(野原千代さん フェースブックから)

く事故後2ヶ月から福島に入られ、その後の貴重な研究成果は世界から注目されていましたが、本当に残念です。心からご冥福をお祈りいたします。

野原さんの講演は、昨年と一昨年の1月の2回お聞きしました。ヤマトシジミは北海道を除く広い地域に分布していて、一世代が1ヶ月ほど、カタバミをもっぱら食べる、異常を判別しやすいなど、放射能の影響を見るのに非常に適した生物ということです。

講演の中から、研究成果の一部を紹介すると、
・2011年5月に採集した個体では、形態異常は比較的軽微だったが、空間線量の増加に伴って翅サイズの減少が観察された。同年9月の

採集個体では、むしろ一様に異常発現率が高まっていた。

・遺伝的影響を見る実験では、2011年5月および9月に採集したチョウを沖縄に持って帰り、沖縄のきれいなカタバミで飼育し、同じグループ内の交配でF1(子の世代)をつくったところ、成長遅延などの異常発現率は原発からの距離と逆相関が見られた。

さらに5月採集分についてはF1のうち比較的元気な♀を選び健全なつくばの♂を交配してF2(孫の世代)をつくったが、F2についても同様の傾向が見られた

・内部被ばくの実験では、2011年夏に福島周辺等からカタバミを沖縄に持ち帰り、沖縄の健全なチョウの幼虫にこのエサを食べさせて、F1をつくり、異常発現率を調べた結果、低い被ばくレベル(エサのカタバミ中の放射性セシウム量)でも、異常発現率が上昇した。内部被ばくは基準値以下だから大丈夫という概念は当てはまらにくいとされた。

その一方、2012年の同様の実験でF2をつくり、内部被ばくの影響をみたところF2の生存率は汚染されたカタバミを食べさせたチョウについては明確な影響を受けるが、F2世代にきれいなカタバミを食べさせると、著しく回復するという希望のもてる結果が得られたとされたのは印象的であった。

今は研究費のとりやすいテーマを選びがちで、社会的に本当に大切な地道なテーマに取り組みにくい傾向がある中で、困難な研究に敢然と立ち向かわれた野原さんに敬意を表するとともに、遺伝子レベルの研究を継続されている琉球大学大瀧研のチームが遺志を引き継がれ、研究をさらに発展されることを願っています。

住民の命・安全を 考えない避難訓練！

原発事故を想定した避難計画や避難訓練が原発立地自治体などで行われていますが、いずれも住民から「命と安全」を守るものではないとの声が上がっています。

今回は先日行われた伊方原発の事故を想定した避難訓練を取り上げ、皆さんと考えてみたいと思います。避難訓練をテレビで見るかぎり、小学生が先生に連れられ遠足をしている様にしかみえない牧歌的なものでした。

訓練計画は伊方原発で事故が起き、船で大分県に避難するというものです。自衛隊の船とフェリー(250人乗り)の2隻の船を使い、中村知事は先頭に立って自衛隊の船に乗り、他70数名が分乗、大分港でバスに乗りかえ避難場所に行くとい



いうものです。

愛媛県は「避難訓練はスムーズに行われ当初の目的は達成された」と発表しました。

巨大地震と原発事故が重なれば 逃げ場を断たれる住民

今回の避難訓練は伊方原発が佐田岬半島の首根っこに当たるところにあり、船で大分に避難するしか方法はなく、しかも5000人が対象に行わなければならないものです。住民が港に行く距離は4kmの所もあれば24kmの所もあり、歩くか自家用車で行くしかありません。「大風などで船が使えないときはどうするのか」との住民の問いに、県は「フェリーを沖合に止めておき、漁船などで運ぶ」「ヘリコプターで運ぶ」と答えています。住民からは「何を考えているのか」と批判が上がっています。

伊方原発立地点はマグニチュード(M)クラスの巨大地震の想定震源域に最も近いところです。福島原発事故を見れば、県の避難訓練が住民の命と安全をあまりにも軽く見ていることがよく分かります。

伊方原発で事故がおこれば 九州、中四国は壊滅の危機

中村愛媛県知事は昨年10月26日再稼働に同意。「国の考え方、四国電力の取り組み姿勢、地元の議論など総合的に判断した。非常に重い責任を伴う判断だ」としています。漁民は「県は船で大分に逃げろというけど、この風は、季節によってはほとんどが東からの風で逆になるのはまれ。だから逃げろと言われても、風によっては、おれたちは放射能と一緒に逃げることになる。原発で事故が起これば終わりだ」と言っています。

伊方原発事故が起これば、四国はもとより、瀬戸内一帯、九州など広く放射能に汚染され取り返すことは出来ません。

福島原発事故後の原発再稼働に同意した中村県知事に「重い判断」とはどのような判断なのか、一度聞く機会をもちたいものです。

「上関原発を建てさせない 山口県民大集会」

【日時】 2016年3月26日

【場所】 維新公園ビッグシェル
(野外音楽堂)とその周辺

10:00 オープニング
(制服向上委員会)

10:25 あいさつ

10:50 メイントーク

長谷川健一さん

(福島県飯館村酪農家)

集会宣言

12:00 デモ行進

13:00~15:00 ライブ

10:00~1500 マルシェ
(三段池)

祝島にて(11/23～11/24)

いのち・未来 うべ 梅田 高

<23日>

室津→祝島→小祝食堂→平さんの棚田→民宿くもと→「原発を建てさせない祝島島民の会」との交流会

地産地消の食堂、農地面積の6割を占めるびわ、みかんの栽培地(斜面が多く石垣を積みあげての)栽培、棚田作り、自然に向きあって生きていく島の生活。その祝島の対岸4kmの所にある田ノ浦の原発建設予定地が目のある現実。

漁業補償をすることとは原発建設で何等かの影響が多々あることを認めていると言う事。回りの8漁協が補償金受け取り賛成。2009年～2013年まで漁協祝島支店だけが受け取り拒否していた。2013年組合の無記名投票により受け取り賛成となる。やっぱり補償金目的の反対運動だったのか。室津海岸での漁船による海上周回の反対運動もかと私も思いました。今思えばそうさせる事が中電の策略だったのでしょう。

でも忘れてならないことは中電、漁協の押しつけの補償金の受け取りをいまだに拒否し続けている現実があります。自然に向き合って生活している祝島の人達にとって自然破壊の元凶である原発建設に反対することは切実な思いなのです。無理ありません。40歳代が70歳代



と30年以上闘っているのです。原発建設反対に揺るぎはありません。

祝島でも最盛期5000人が480人に減少。過疎化してきています。

祝島で建設反対の看板等大きく目立つものは無かったのですが、地元の人と話をするとなんか観光ですか、原発関連ですかと尋ねられました。原発関連と話すとなんか話が進むんですね。自分の意見を自分の言葉ではっきり話されたのが印象深かったです。反対運動は見た目は静かですが深く深く浸透しているんだと痛感しました。



<24日>→氏本牧場

自然を壊すことなく自然のサイクルと一緒に生活する。休耕田に豚を放し飼いし飼料を島民の残飯(みかんの皮、野菜、おから等)を一定のゴミ缶に提供して貰い、豚の飼料としてサイクル化。豚は休耕田のサイクル飼料と雑草を食べて健康的に育ち、休耕田は田として活用していく。都市部ではできないサイクル化。また休耕田の棚田を自然農法で育て自然植栽して販売もしていく。都市部ではできないサイクル化。これこそ祝島にあった自然サイクル活用モデルだと思います。こうした自然に向き合って生活する祝島の前に立ちはだかる、自然破壊以外のなにものでもない原発建設。反対運動が根付くのは当然です。応援しなければなりません。

福島のような原発事故は、伊方原発しかり、予定地の上関原発しかり、全国の原発何処でも起こりえます。対岸の火事どころではありません。未来の子どもたちに禍根を残さないためにも原発建設に声を大にして反対すべきです。

予定地として候補にあがった豊北町、さらに伊方原発、島根原発再稼働反対の人達とも連絡を密にして、「山口県に原発はいらない」運動を広める必要があります。

上関原発住民訴訟第12回口頭弁論

中国電力による上関原発建設計画のための埋め立て免許延長申請の可否判断を引き延ばして生じた県財産の損失を、県に支払うよう知事に求めた上関原発住民訴訟第12回口頭弁論が12月9日開かれました。裁判長は、前回の弁論で原告側の申し立てを認め、延長申請審査の過程で中電とやりとりした文書の提出を県に求めました。これに対し、県はこれまでに開示した文書と同様に、黒塗りの文書を提出しました。

原告弁護団長の田川弁護士は、黒塗りの理由を求め、被告側が県情報公開条例の非開示事項に当たるとしていることについて、具体的な理由、判断基準を説明して欲しい」とのべ裁判長から被告に釈明を求めるよう申し立てました。

また原告側は12月7日付で文書提出命令を裁判所に申し立てており、文書の中身を明らかにさせる動きを強めています。

今回は、2016年2月3日14時からの公判です。今後、上記文書が公務員秘密文書に当たることが争点となると思われます。

大勢の方の傍聴をお願いします。

「祝福の海」が周南市で上映

2015年11月29日、東城雅之監督「祝福の海(いのりのうみ)」が周南市で上映された。

2009年、東城さんは長門市湯谷で塩作りの井上さんに出会い「海はすべての生物のお母さん」という言葉に感銘する。同時期、熊毛郡上関町祝島を訪れた時、30年間身体を張って美しい豊かな海を守ってこられた祝島の方々のことを知った。2011年、福島原発の事故で海が汚染され、漁師の方々の深い嘆きと苦しみを見た。

海でつながっている3場面を紹介し、東城監督は「母なる地球と生きとし生けるものたちと調和のうちに平和に暮らせる世界」を願っておられます。映画の場面では福島で祈りの読経を続けておられる僧侶の話が私の心に残った。

しかし私はその言葉を再現できない。もう一度映画を見なおす他ない。

高杉静江

会津放射能情報ンター代表

片岡輝美さんのお話を聞いて

1月11日、日本キリスト教団小郡教会において、「原発核事故の時代をキリスト者として生きる」と題して片岡輝美さんの講演会が行われました。「まさか自分たちの県で、自分たちが生きている間にあのような事故が起きると思っていなかった」とのべ、今、福島で起きていること「絆、復興、汚染、賠償、帰還、健康管理、放射線教育、食の安全教育、再稼働」等、多岐にわたる問題にふれ、見えない放射能との日々の闘いを生々しく語られました。印象深かった現地の人たちの実態とその声を紹介すると一

子どもの甲状腺検査の説明会では、親の不安を解消するために行うと言うが、検査時の親の立ち会いは拒否、結果について詳しく知りたい場合は情報開示請求が必要。しかも検査をする人の名前は非開示とされている。福島県が把握しているだけで、現在、151人の子どもの甲状腺ガンが見つかっており、もう一人もガンの疑いが濃い。会津地区は7人で他地区とあまり変わらない。ある専門医はチェルノブイリと同様、甲状腺多発傾向にあると指摘している。

県内避難した子どもたちの状況をみると集中力がない、特に部活の子どもに多い。また、不登校や高校生の自殺、幼児の虐待などが増加している。子どもたちは周囲の無意識な言葉に傷ついている。

○ ある女子は学校で、被ばくしているので体重を測ると言われ、体重計にのると教室の電気が消された。先生は〇〇さんは被ばくしているので「光る」とおもった、と言われた。その子はこのことを他の人に告げるまで一年かかった。

○ 運動会で避難してきている子どもたちに声援があがっていた。よく聞くと10万円ががんばれ！といっている。(注 10万円は避難者対象地域住民への精神的損害賠償として支払われている)

○ 大熊町国道6号線の清掃活動が子どもたちのボランティアで行われた。ある生徒は参加でき

できないと伝えに行くと、「あなたは3年生でしょ。内申書があるでしょ」と言われた。

自主避難者の声

- 若くして30代で家を建てた。3ヶ月後福島市にブルーム(雲)が通り会津に避難した。最近ようやく家を売ることになった。ある日家を見に戻った。すごく暖かいいいおうちだった。
- 小さい子が白いおうちに帰りたいという。今はアパート住まい。また逃げないといけないのでアパートに住んでいる。
- 女の子に誕生祝に何がいいかとたずねると運動会が終わって、福島に行ってお母さんの手料理が食べたいという。
- お父さんは本社に行くと言った。君の椅子がいつまでもあると思わないでくれと言われた。
- 毎日遊びに来ていた孫が避難してなくなった。

猫を飼ってあげるからと遊びに来させ線量計をつけて外に出した。孫は猫を追って草村に入り、線量が高くなった。—

片岡さんはまた、原発と核は一緒に考えて欲しい。人類は核の領域に入ってはならない。

人々が集まっている所には希望はあるが絶望はなくなる。直面している現地を我が身に置き換えることが重要だと思う。県外の人々の耳に届きにくいとしめくられました。

浜野ミヨ子

それってホント??

5. 「地域活性化に貢献」と言うウソ

原発が建つ地域は迷惑施設を引き受ける「受苦地」ですから、電源三法などによる交付金を落とす仕掛けになっています。しかし、それは巨大な箱モノに身を託すだけの麻薬効果にしかならず、地域振興に寄与するどころか、自治のちから、街や、人のつながりを断ち切り、過疎化や地域の衰退を招いています。

金曜ウォークへ参加の呼びかけ
毎週金曜日、各自手作りのプラカードを持って、宇部市役所正面玄関を、18時に出発して宇部新川あたりで折り返す、静かな原発反対行動をしています！

みなさんのご参加をお願いします。



金曜ウォーク2016元旦

福島郡山からの便り

「ほよ～ん 相談会」の呼びかけに応じて野菜を贈った浜野さんへ郡山の横田麻美さんから感謝の便りが寄せられました。

浜野様

はじめまして…。

山口のお野菜を届けていただきありがとうございました。

相談会来場者に配ることが出来たのも浜野様をはじめ山口の支援者、全国の皆様のおかげだと感じております。今後ともよろしくお願い致します。取り急ぎお礼まで

かしこ

2015. 11. 14

学習会へのお誘い

いのち・未来 うべの学習会は月2回、第1金曜日と第3金曜日ウォーク後、緑橋教会で行っています。途中の回からでも参加できます。

豊北を訪ねて

38年前にたたかわれた豊北原発反対運動の経験はわたしたちにとって大きな財産です。

山口県原発建設反対運動は田万川、豊北、萩三見原発建設を許さず、上関では34年間闘いつづけてられています。いずれも現地農漁民の「祖先の土地と海は売らない」との決意のもと全県民の力に支えられ、山口県には原発を建てさせていません。

最近、豊北地域を訪問し、当時の生々しい体験を聞くことが出来ました。



ある婦人は「毎日のように夜遅くまで農村に入り、語り合い、原発反対の輪を広げるために活動した」また、「どうしたら勝てるのか日々考え続けた」と話されました。

当時20歳、若者だった漁民は「幹部から役場がおかしい、早くこいと言われ、役場に駆けつけ大声で反対を叫んだ」と当時の熱気を伝えてくれました。

また、当時をふりかえり「漁協幹部はよい選択をしてくれた。海をよごさずにすんだ。特に福島原発事故後は作らせなくて良かったとつくづく思う」と豊北原発反対運動の正しさをかみしめておられた。

祝島の闘いを聞くと「祝島の方々はスゴイと思う。34年間戦い続けていること、金を受け取らないこと、だれにでも出来ることではない。白羽の矢を立てられて人生を変えられた。誰のために人生を狂わされのかと思う」と語られた。

国策として進められた豊北原発建設に反対す

ることは国家、中国電力、原発推進議員に真っ向から立ち向かう生活を賭けたたたかいであり、人生にとって忘れることができない大きな出来事であったのです。それだけに38年前のことは昨日あったかのようにことこまかく話されました。

県連絡会の活動については「こうして話を聞いて歩くことは大変なこと。そういう人がいないと祝島だけでは持ちこたえられない。賛同者、協力者がいて、持ちこたえられる」と言われました。

私たちはこの度豊北原発反対闘争の体験を聞きに尋ねて歩いたことはとても良かったと思いました。(H)

記事の訂正とお詫び

通信9号の記事に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

5ページ左段下から3行『対立』これは戦前・戦中・戦後の対立→『対立』これは戦前・戦中・戦後の**思想**の対立よりも…



編集後記

庭の畑には落のとうが次々と顔を出し梅も綻び始めた。冬場は陽の当たりが悪いが条件にめげず、春を待つ自然の営みに感謝している。

フレコンバッグに囲まれた被災地はどうなっているのだろうか。3.11から早や5年目を迎えようとしている。今回は3.26県民大集会のメインゲストである長谷川健一さんの元旦の写真を掲載した。この一枚の写真から脱原発の運動が今年もさらに広がっていくよう願っている。